

インシデント・スタディについて

長崎和則．(2003)．事例研究の方法，精神保健福祉援助実習．pp.103-120．久美出版．
より一部抜粋した

①インシデント・スタディ

インシデント・スタディは，検討する事例のインシデント（出来事）の提示から始まる．その事例は，事例全体ではなく，ある場面での出来事（インシデント）として提示される．当然，参加者は全体が分からないので，質問することによってその出来事の背景，原因となる情報を集める．そして，それに基づいて問題を分析し，対策を考えていく．重要なポイントは，全体像が分からない状況から，何を必要な情報であると考えて聞き出すのかということである．

先のヒストリカル・スタディでは，最初に出来事の全体が示される．ここでは，一応完結した形で事例の提示がなされることになる．先にあげた，「e. 分析・考察・感想」までが示されるということである．しかし，インシデント・スタディでは，情報を集めながら，同時に問題を明らかにしていくという特徴がある．

具体的な手順としては，次のようなものがある．

a. インシデント（出来事）の提示

インシデント（出来事）が提示される．

b. 事実や情報の収集

インシデントを聞いただけでは分からないで，背景となっている事実や必要であると考えられる情報を集める．このときの手段は質問だけである．したがって，自分なりに事例の全体を考えながら，問題の解決に関係があると思われる事実を集めることになる．

当然のことであるが，必要であると思われぬことは，質問されないし，結果として情報も得ることができない．

c. 解決すべき問題を明らかにする

インシデントと集めた情報を総合的に考え，事例の全体像を作る．そしてその上で，当面の問題点が何かを考える．

d. 問題解決に必要な対策とその理由を考える

問題を解決するためにはどうしたらよいのか，どのような対応が必要なのかについて考える．また，それはどうしてなのかについても考える必要がある．何か援助として採用されるのか，その理由は何かを明らかにすることが大切である．

e. 何を学んだかをまとめる

この方法によって，この事例から何を学んだのかをまとめる．考えた対応とその理由について話し合い、まとめ，インシデントを提供した人から実際の対応とその後の経過を聞く．

表2：インシデント・スタディの手順

内 容	所要時間
インシデント（出来事）の提示	5分
事実や情報の収集	60分
解決すべき問題を明らかにする	30分
問題解決に必要な対策とその理由を考える	30分
何を学んだかをまとめる	30分

注：残りの時間は，準備や休憩，その他の説明などに当てられる．